令和６年２月２０日招集

第１回小坂町議会（定例会）

# 発　言　通　告　書

| 発言順 | 議席番号 | 氏　　名 | 発言の種別 | 出　席　要　求　者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 8 | 鹿児島　巖 | 一般質問 | 町　　長 |

| （発言の要旨） | （発言の内容） |
|---|---|
| １．移住定住政策について | 総務福祉常任委員会は、コロナ禍で取り組めなかった委員会での先進自治体事務調査を、昨年１０月に四国・高知県の四万十町と梼原町で実施したが、この調査で得たまちづくりでの諸施策から示唆を得て、提案をしたい。<br>移住定住政策について抜本的な見直し、再構築を図るべきである。<br>具体的には、両町の取り組みを例示して提案したい。<br>1. 四万十町の移住定住政策は次の７本の柱の複層的な連携で構成されており、この施策に学んで町としての具体策を構築することを提案したい。<br>①まちの魅力発信→Facebook・Instagram・YouTubeの活用<br>②空き家の調査・空き家情報の発信<br>③移住施設（お試し滞在住宅・中間管理住宅・移住支援住宅等）の管理運営<br>④移住定住住宅（移住支援住宅・中間管理住宅）の管理運営<br>⑤移住定住各種補助制度の整備<br>⑥四万十町東京オフィスの運営<br>⑦地域おこし協力隊制度の活用<br>2. 梼原町でも空き家の調査から空き家の活用などを積極的に行うなど学ぶべき施策で大きな成果を上げている。<br>こういった事例に学んで施策の再構築を図ることを提案したい。 |
| ２．地域おこし協力隊にかかわって | 現在町が行っている地域おこし協力隊の募集方法は、協力隊員の取り組む仕事を指定して募集しているが、この「協力隊で取り組む仕事を指定しての募集方法と募集規模」について、発想の転換を図ってはどうかと考えて提案したい。<br>具体的には町が取り組んで欲しい仕事を提示して募集する方法から、隊員が町で取り組みたい仕事を受け止めて、隊員として受け入れる。<br>例えば農業や林業、商業や各種起業であったり、教育関連、福祉関連やＩＴ関連の起業など様々な仕事を、町に住んで取り組みたいと希望する隊員を１０人規模で受け入れるなどである。 |

| 発言順 | 議席番号 | 氏　　名 | 発言の種別 | 出　席　要　求　者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 8 | 鹿児島　巖 | 一般質問 | 町　　長 |

（発言の要旨）

３．町民が安心して住み続けられるまちづくりについて

（発言の内容）

高齢の町民にとって、冬期間は暮らしづらく、この期間は町外で、あるいはそのまま転出してしまう事例が増えていると受け止めているが、そういった中で自立して暮らしている高齢者から、せめて冬期間のグループで生活できる場が有ればとの声や、町にサービス付集合住宅・マンション型住宅（サ高住）があれば町で暮らしていたいとの声も聞くところである。

高齢となっても安心して住み続けられるために、自立して暮らせる場、冬期間のグループで生活できる場や、定住できるサ高住などの施策に取り組む事を提案するがどうか。

| 発言順 | 議席番号 | 氏　　名 | 発言の種別 | 出　席　要　求　者 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 6 | 秋 元 英 俊 | 一 般 質 問 | 町長・教育委員会の教育長 |

| （発言の要旨） | （発言の内容） |
|---|---|
| １．生ごみ消滅処理実証について | 1．令和５年度小坂町家庭用生ごみ消滅処理実証試験について、一本杉自治会及び栄町自治会での持込量の数量とその減容率は出ているのか。<br>2．この結果を含めた考察はどのようなものか。（小坂町として、生ごみ処理の展望は。） |
| ２．災害時個別避難計画について | 1．災害時における個別避難計画は、２０２１年の改正災害対策基本法で、２５年をめどに整えるよう努力義務を定めていますが、小坂町での現状はどのようになっているのか。<br>2．公共施設におけるエレベーター停止による人の閉じ込めに備えた事故対応の訓練はなされているのか。 |
| ３．地域おこし協力隊について | 小坂町では、大川岱などの観光を十和田湖西湖岸地域開発合同会社に委託していますが、道の駅十和田湖に観光地域おこし協力隊を配置し、さらなる観光への活発化を図るべきと考えますが。（町民からアピールが足りないとの指摘が多く聞かれる。） |
| ４．学校保健統計調査について | 1．小坂町での、学校保健統計調査のデータはどのような結果が出たのでしょうか。<br>2．健康診断のデータを元にした対策はどのようにしているのか。 |
| ５．細越町政について | 1．４期目も残すところ１年となり、４期目のこれまでの歩みを総括していただきたい。<br>2．残すところ１年についてどのような考えで進めるのかを伺います。 |

| 発言順 | 議席番号 | 氏　　名 | 発言の種別 | 出　席　要　求　者 |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 5 | 菅原　明雅 | 一般質問 | 町　　長 |

| （発言の要旨） | （発言の内容） |
|---|---|
| １.「小坂町人口ビジョン」について | 「秋田魁新報」は「地方創生 失われた１０年とこれから」という特集を組み、政府が１０年前に看板政策としてスタートさせた「地方創生」について検証しています。その１月１日付新聞には、「『地方創生』スタート時に各自治体が推計した２０２５年度時点の将来人口を、昨年時点で多くの自治体が既に割り込んでいる。秋田県内では２５市町村のうち１３市町村が２０２５年の推計人口を昨年時点で既に下回った」と記されています。残念ながら本町小坂町もその中に含まれております。<br>資料は町が２０１６（平成２８）年に作成した「小坂町人口ビジョン」と実際人口とを比較したものです。<br>２０２５年１０月１日時点の「小坂町人口ビジョン」の推計人口４，６０６人に対し、実際人口は２０２４年１月１日現在で４，５５０人となっています。小坂町の実際人口は、１年１０か月後の「小坂町人口ビジョン」の推計人口をすでに５６人下回っていることになります。一方、社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の２０２５年推計人口（４，３５４人又は４，２１２人）よりは、実際人口は上回ると推測されます。<br>総じて「目標には到達していないが、よく持ちこたえている」と考えます。そこで、<br>1. 本町が、この「小坂町人口ビジョン」に基づいて成果を上げたと考える施策と、逆に成果を上げることができなかったと考える施策をお示し願いたい。<br>2. 「小坂町人口ビジョン」の推計人口に届かない大きな理由の一つに「出生数の減少」が考えられます。「秋田魁新報」の記事には、大潟村村長の「出生数が一桁になることへのおそれと危機感」が述べられていました。町長は、そのようなおそれや危機感をお持ちか、またそのための施策をお考えか、お聞かせ願いたい。 |
| ２.「給食費の無償化」について | 「給食費の無償化」については、本議会でも再三提案されています。<br>少子化問題は難題ですが、将来を見据えれば、避けられない問題でもあります。町独自の子育て支援を私は評価しておりますが、先の資料のような客観的な数字を見ると、今一歩踏み込む施策が必要であると考えます。<br>近隣市町村に先んじて「給食費の無償化」を実現していただきたい、と改めて提案いたしますが、いかがお考えか、お聞かせ願いたい。 |

| 発言順 | 議席番号 | 氏　　名 | 発言の種別 | 出　席　要　求　者 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 4 | 3 | 本 田 佳 子 | 一 般 質 問 | 町長・教育委員会の教育長 |

| （発言の要旨） | （発言の内容） |
| --- | --- |
| １．トイレトレーラーの導入について | 令和６年能登半島地震で被災された現場では、一番に必要であったのは水であったが、それと同じくらいトイレも必要であったそうだ。その時にトイレトレーラーを持っている自治体の応援があり、大変助かったとのお話を伺った。このトイレトレーラーを持つことで、災害時に使えるだけでなく、イベントなどにも使えるほか、近隣の自治体が、必要とするときも、応援に行けるという利点がある。小坂町でも導入を考えてはいかがか。 |
| ２．寝台特急あけぼの号の再開について | クラウドファンディングで目標額を大幅に超える寄付があり、再開に向けて準備が整いつつある事を伺っている。再開するに当たって、どのように運営をしていくのか。集客の工夫は考えているか。 |
| ３．高校生のスクールバスについて | 新しく鹿角高校が開校されるが､共働きの親にとって、送り迎えは時間ロスがあり、かなり厳しい。学校で出していただけるのか、町で考えていただけるのかは分からないが、スクールバスがあると助かるとの親のみなさんの心配の声があがっているが、対応は可能か。 |